

キャンパスFM研究部会

大学淘汰時代を乗切る キャンパスFMの仕事

キャンパスFM研究部会 部会長

藤村 達雄 ふじむら たつお

 東京音楽大学 キャンパス整備室長
 認定ファシリティマネジャー


18歳人口の減少

大学は18歳人口が減少する中で、24校の入学定員3,000人以上の大規模校に46%の受験生が志願し、残りの小中規模校558校が54%の志願者を奪い合っているという構図になっている。志願者数の寡占化、大規模校と小中規模校との二極化が起きている。

大学淘汰を加速する外圧

株式会社「学び」の寺裏誠司氏は、大学淘汰を加速する外圧として、Internet EducationであるMOOCs*の進化と、それを補完する自動翻訳機能とバーチャルリアルティの進化をあげている。これは、わが国に世界のトップクラスの大学の本格的な進出の脅威を示しているという。さらに、2014年に開設された「ミネルバ大学」は、ハーバード大学やスタンフォード大学の教員とシリコンバレーの経営者が、「最も学習効果が高いアクティブ・ラーニング手法を、より適切なコストで世界中の才能ある生徒に提供する」というミッションを掲げている。この大学は、キャンパスもなく、Internet Educationで各自が事前学習をし、普通の集合住宅を寮として世界から学生が集い、4年間で世界7都市を巡り、各地でインターンシップを行う。学費は、米国のトップクラス大学の1/4と、投資対アウトカムが高い。わが国の大学は、このような脅威に対し、教育と研究の質を不断に向上させる取り組みが求められる。

大学ガバナンス・コード

文科省が2019年1月7日に提示した「学校法人制度の改善方策」の一つに「『私立大学版ガバナンス・コード』(自主行動基準)の策定の推進」が掲げられている。このことについては、大学監査協会が、2017年3月10日に「大

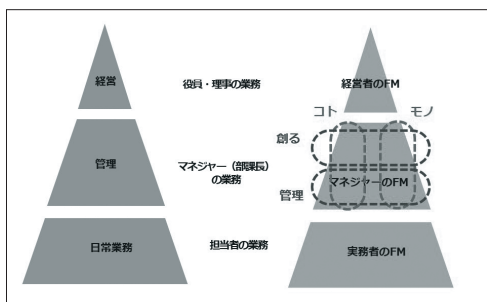
学ガバナンス・コード(案)」を提案し、3つの役割、「第1: 大学ガバナンスに係る主要な課題の提示」、「第2: グッドプラクティスに提示とそれへの準拠を促す」、「第3: 準拠しない場合の説明を促す」を示し、5つの基本原則と30の原則をあげている。これには、理事会の役割・責務として「リスクテイクを支える環境整備」「運営責任者に対する実効性の高い監督」「適時・正確な情報共有による監督」「内部統制・リスク管理体制の整備」等をあげている。

経営手腕のある学長

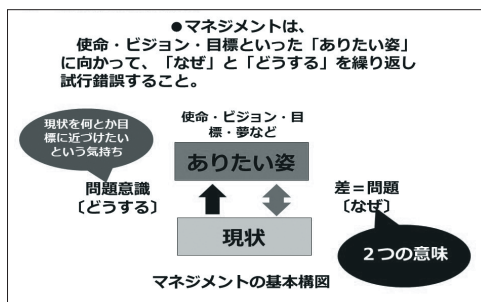
東京大学准教授両角亜希子氏は、2019年2月11日付け日本経済新聞に「学長人材の育成、経営ノウハウ共有が急務」の中で、学長に求められることとして「教職員の理解や協力を引き出す」「ビジョンや目標を示して組織を引っ張る能力」の2つあげている。1つ目には、「自分の考えを正確にわかりやすく伝える能力」「教職員と丁寧に、真剣に話を聞くこと・誠実さ」「データでの説得・エビデンスの重要性」。2つ目には、「優れた提案力」「やると決めたらやり抜く強い覚悟」など。これら、経営手腕のある学長の育成が望まれる、としている。

キャンパスファシリティマネジャーが行うこと

大学淘汰時代を乗り切るために、これからのキャンパスファシリティマネジャーは、上記のことを踏まえ、経営者が行うFMの支援業務、部課長としてのFM業務、管理運営のディレクション業務を行うことになる(図表1)。その際、「現状」と「ありたい姿」のギャップを埋める「問題探求&解決」である「マネジメントの基本構図」の考え方を踏まえることが重要となる(図表2)。キャンパスFM研究部会では、これらのことを整理し、ガイドブックの見直しを進めていく。◀



図表1 FMをどう捉えるか



図表2 問題探求&解決

* MOOCs (Massive Open Online Courses: ムークス) は、インターネットを通じて無料で世界各国の有名大学の授業を受けることができる、新たな学習環境の手段で「大規模公開オンライン講座」と訳される。